

第5回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会 議事録(案)

1. 日時:平成24年2月22日(水) 15:00~17:00

2. 場所:一般社団法人 日本自動認識システム協会 B会議室

3. 次第:

- | | | |
|-------------------|----------|--------------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 | 15:00 ~ |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 | 15:01 ~ |
| 3. 委員会(議事) | 半谷委員長 | 15:05 ~16:20 |
| 1) 前回議事録確認 | 事務局 | 15:05 ~15:30 |
| 2) アーキテクチャの詳細について | 中村委員 | 15:30 ~16:20 |
| 3) 報告書について | 中村委員、事務局 | 16:20 ~16:40 |
| 4) まとめ | 半谷委員長 | 16:40 ~16:50 |
| 4. 事務連絡 | 事務局 | 16:50 ~17:00 |
| 1) 今後の日程 | | |
| 2) 写真撮影など | | |

4. 出席者:(敬称略)

- | | | |
|--------|-------|--------------------------|
| ・委員長 | 半谷精一郎 | 東京理科大 工学部電気工学科 |
| ・委員 | 瀬戸 洋一 | 首都大学東京産業技術大学院大学 産業技術研究科 |
| ・委員 | 中村 敏男 | (株)OKI ソフトウェア 企画室 |
| ・委員 | 寶木 和夫 | (株)日立製作所 横浜研究所 |
| ・委員 | 福田 充昭 | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所 |
| ・委員 | 平野 誠治 | 凸版印刷(株) 事業開発・研究本部 |
| ・委員 | 山田 朝彦 | 東芝ソリューション(株) IT技術研究所 |
| ・オブザーバ | 鎌倉 健 | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所 |
| ・オブザーバ | 山中 豊 | 経済産業省 産業技術環境局 情報電子標準化推進室 |
| ・事務局 | 酒井 康夫 | (一社)日本自動認識システム協会 |
| ・事務局 | 森本恭弘 | (一社)日本自動認識システム協会 |

5. 配布資料

- 資料1: 第5回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会アジェンダ
資料2: 第4回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会議事録(案)
資料3: アーキテクチャの詳細について
資料4: 報告書目次(案)

6. 議事内容

1) 前回議事録確認

資料2を用いて、第4回IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会の議事録を確認し、承認された。

2) アーキテクチャの詳細について

中村委員より、資料3を用いて、アーキテクチャの詳細について報告があった。

説明の概要は下記。

①本年度の事業で開発したプロトタイプの実演

ローカル環境の中に、BioIDM Connection、BioIDM Transaction、BioAPI Framework V2.2 およびダミーBSPを載せた実演が行われた。

環境の詳細は下記。

a) ハードウェア

- ・PC: NEC VersaPro VB-B
 - Intel® Celeron® CPU U3400, 1.07GHz
 - RAM: 2GB

b) ソフトウェア

- ・OS: Windows 7 Professional SP1
- ・ブラウザ: Google Chrome Ver16.0.912.77 m ※WebSocket 対応ブラウザ

c) インストールしたプログラム

- ・BioAPI フレームワーク V2.2 (プロトタイプ) ・BSP (指紋用ダミーBSP) ・BioIDM Transaction
- ・VisualStudio2008 ランタイム
- ・BioIDM Connection ※Web コンテンツとして Web サーバに格納して利用可能

d) デモ内容

- ・指紋用ダミーBSP を用いた登録操作
- ・同BSP を用いた照合操作 (Verification)

②性能評価結果の報告

Webアプリケーションとバイオメトリック用インタフェースであるBioAPIの間に2つのソフトウェアコンポーネントを配置し (BioIDM Connection と Transaction)、これらのコンポーネント間を Web Socket で接続する構成のため、処理にオーバーヘッドが追加される。そのため、処理時間についての評価を行い、本方式の設計上の妥当性を検証した結果について報告があった。

測定条件は下記。

- a) 処理時間がより重要な Verify を対象とする (Enroll は今回の評価対象としない)。
- b) 測定区間はキャプチャ開始直前から照合直後までとする (利用者の画面操作時間を含まない)。
- c) BSP はソフトウェアエミュレータ (ダミーBSP) を用い、Capture 時間、Process 時間、Verify 時間などあらかじめ固定の時間を設定する。

測定結果は下記。

	Progressイベントの画像サイズ		
	0KB	19KB (120x160)	300KB (480x640)
測定結果	10.093秒	10.094秒	10.094秒

今回の評価では、想定される最短時間である 10 秒に対して処理時間の増加分が約 10ms に抑えら

れることがわかり、マルチスレッドによる並列処理の有効性とともProgress イベントの負荷による影響もほとんど無視できるため、設計上の妥当性が確認できたと考えている。

- ③来年度以降の検討事項として、「OpenID、 SAML 連携」「マルチキャプチャ登録のサポート」「モダリティの追加」「デバイス接続」「デバイスを用いた性能評価」が必要と考えている。
- ④来年度以降の実証実験の実施に必要と考えられる条件が変更になったので、改めて「[前回からの訂正] 来年度以降の進め方について」にまとめた。実証実験への参加を前向きにご検討いただき、ご対応のための準備をいただきたいとの要請が再度あり、各委員が検討することとなった。

主な質疑およびコメントは下記の内容。(Q:質問、A:応答、C:コメント)

- ① Q: 処理の増加部分は何か。またデータによって影響された部分はどこか。
A: 処理増加部分は、スレッドの切り替え時間とトランザクションとコネクション間の通信部分である。また、実験結果からはデータによる影響は表れていないと考えている。
- ② Q: 標準化を目指す部分があると思うが、どの部分の標準化を目指すのか。
A: BioIDM Connection と Transaction およびその間のインタフェース部分にあると考えている。
また、具体的な検討は来年度以降であるが、IdM システムとつなぐ部分にある可能性があると考えている。
- ③ C: BioAPI は現在あまり普及されていないが、この考え方が実現されるとバイオメトリクスを使うのが容易になり、使われる範囲が広がるので、BioAPI が普及するきっかけになりそうと考える。
- ④ Q: ブラウザは Google Chrome だが、IE などは使えるのか。
A: WebSocket に対応していることが必要。今の IE は対応していないので使えない。今後使えるはずと考えている。

3) 成果報告書構成案

事務局より、資料4を用いて、成果報告書目次の提案があった。3月末までにまとめ、3月末から4月頭に発行することを計画しているとの説明があった。

報告書は、提案の方向でまとめていただき、メール等で委員の審議をいただくことになった。

4) まとめ

半谷委員長より、実施実証実験への参加について、前向きにご検討いただき、ご対応いただきたいと改めて要請をいただいた。実証実験参加を促進するため、来年度初に各会社にお問い合わせ状を発行することなども含め検討することとした。

7. 事務連絡

1) 次回予定等

事務局より来年度の委員会については、正式に継続が決まってから、来年度の委員委嘱を行った後、始めたいとの説明があった。

以上